

第 10 回 医療人類学

- 途上国における保健・医療への新しいアプローチ -

2001-2002 年に SOAS の医療人類学修士 (Master of Arts) に在学しておりました杉下智彦と申します。2001 年 10 月に SOAS で私と数人の仲間たちで始めた開発勉強会が、現在では在英開発学専攻自主勉強会 (IDDP) という形で発展し、ロンドンのみならず英国・ヨーロッパ在住の大学院生を対象に活発な活動が行われている様子を、遠く離れたここタンザニアの地において見守っております。私もアフリカの保健・医療開発に関わって 10 年が経とうとしていますが、このような皆さんの熱い心意気を大変頼もしく思います。

さて医療人類学は、「医療は文化である」という視点から、世界中の様々な保健・医療の問題に焦点をあてて分析をする新しい人類学的方法論です。例えば、「私は健康です」といった言説にも、それを語る人の年齢や国籍、性別、職業などの文化的・社会的な背景が異なれば、「健康」が意味している文脈は個人で異なってくることになります。つまり、医学というサイエンスで分類され単一であるはずの「疾病」は、個人がそれぞれの持つ文化的背景を基礎に意味づけを行う、また社会が新たな意味づけを付加するような形で、現実社会においてはサイエンスとは別の次元で「意味の再生産」が行われているわけです。

私は青年海外協力隊の一員としてマラウイ共和国で 2 年間外科診療に従事しました。入院患者さんの実に 70% がエイズ末期という過酷な診療を通して、私がそれまで信望していた「西洋医学」の限界を肌で感じ、「伝統医療」、「薬草」、「呪術・妖術」、「宗教的な癒し」といった人々の主体的な「文化的創造」ともいべき様々な「意味の再生産」に触れてきました。私は途上国の現場において医学を超えた「文化としての医療」へのアプローチの必要性を痛感したのと同時に、途上国の保健・医療問題を考える上で「医療人類学」という切り口が近年注目されてきていることを知りました。

医療人類学は 1960 年代あたりから米国の文化人類学者を中心として応用人類学として始まりましたが、現在では一つの学問的体系として認識されています。私は英国に留学する前に米国で「公衆衛生学」の修士を修めましたが、その担当教官の勧めもあり、主流である米国ではなく英国の医療人類学を修めることにしました。これは私の留学の主眼が「アフリカ」という「地域研究」の中で「文化としての医療」を捉えることにあったために、アフリカ研究の奥が深い英国で、中でも SOAS が医療人類学講座においてアフリカの社会学・哲学・人類学・言語学を包括的にアプローチする方法を取っていることに魅力を感じたからです。

クラスは毎年 35 人から 50 人程度で、英国人が半数、残りの半数は欧州、アジア、アフリカから学生が集い非常に国際的です。ちなみに日本人は私一人でした。また医師も私しかおらず、看護師、栄養士、NGO 関係者、福祉関係、ジャーナリストなど多彩なバックグラウンドの人が多く、ほぼ 7 割は途上

国での保健活動や開発援助の経験がありました。

授業は3期制で、第1期と第2期にそれぞれ3つのモジュールを選択しエッセイの提出があるとともに、第3期には選択したモジュールの筆記試験ならびに自由課題での修士論文の提出があります。モジュールでは私のような人類学的素養のないものは「社会人類学総論」および「医療人類学」が必修、あとは「開発人類学」、「アフリカ地域研究」、「アフリカ哲学研究」、「ジェンダー人類学」、「スワヒリ語」、「リサーチ手法」などの中から選択することになっています。修士論文は実際に現地を訪問してリサーチを行う人は2割程度で、二次文献のレビュー分析で論文を書く人が多数を占めます。ちなみに私はマラウイで2ヶ月間エイズの伝統医療を調査しました。

SOASの特徴は、ロンドンという地理的な利点を活かした学外のリソースの豊富さにあります。SOAS図書館にない文献は大英図書館をはじめとする他の図書館に容易にアクセスできますし、私は学内やUCL、LSHTM、LSEで行われる様々な人類学の勉強会にできるだけ参加するようにしていました。またサセックスやオックスフォードなどで開かれる学術会議や講演会に出席したり、国際医療人類学学会がロンドンで開催されたことを機会に演題を発表したりと、学外での交流を通して多くのことが学べたことが最大の収穫でした。またそのような交流を通して新たな人脈を構築できたことは、現在にいたるまで大変に有益な財産となっています。

最後に、「文化としての医療」にメスを入れるためには多くの方法があると思いますが、SOASで学んだ「医療人類学」はアフリカにおける保健・医療の諸問題に取り組んでいく上でかけがえのない貴重なフレームワークを私に与えてくれたと思っています。もしなにか詳しい情報が必要でしたら、下記HPが私までご連絡いただければと思っています。

皆さんの今後の御活躍を心から応援しております。

2004年3月7日

JICA タンザニア・モロゴロ州保健行政強化プロジェクト

チーフ・アドバイザー 杉下 智彦

e mail: mhp-sugi@morogoro.net

SOAS Homepage: <http://www.soas.ac.uk/>



マサイ族(タンザニア)の若者によるエイズ啓蒙活動(写真)